



今井小だより

第11号
令和4年
1月31日
青梅市立今井小学校



今井小HP

四つの「識」で行動につなげよう

校長 神尾 健彦

社会で起こっていることをつい他人事と思ってしまい、自分のこととして考え捉えることができない場合があります。自分のこととして捉えられないと、その後の判断が甘くなってしまったり、行動が遅れてしまったりしてしまふことがあります。

現在、新型コロナウイルス感染症の感染者数は過去最高となる日が続いています。東京都にはまん延防止重点措置が発令され、警戒が続いています。このような状況下で私たちはどのように行動すればよいのかを判断するために必要なことを四つの「識」で考えます。

まずは、現在の状況を正しく把握し、自分も当事者となる可能性があることを受け入れ、「認識」することです。この段階で止まってしまうと、何も前に進みません。「認識」することが第一ステップです。

次に認識することによって、正しい対処をするための情報を得ようとしています。その中で知ったこと、気付いたことが「知識」になります。「知識」を習得することが備えの第二ステップです。例えば、新型コロナウイルスは飛沫による感染が主なものであること、今回の変異株は感染力がこれまでのものより強くなっていることなどの知識を身に付けます。知識は判断のよりどころとなります。そのためには正しい知識をもつことが何よりも重要です。正しいかどうかを見極める判断力も求められます。憶測に基づいた情報やデマに惑わされないことです。

正しい「知識」を身に付けると、現在の自分の状況を「意識」するようになります。「意識」するとは対象に対して気にかけることです。学校の状況はどうなっているのだろうか、自分が陽性となった時はどのようにしようか、仕事をどのようにしようかなど、自分のこととして「意識」し考えるようになります。これまで対岸の火事だと思っていたことを自分の身にも起こりうるかもしれないと考えるようにすることが、「意識」するということです。

そして、この状況を特別なことと思わず、当たり前のこととして定着することが「常識」になった状態です。常に「意識」して「知識」が生活の中に溶け込み、「常識」として受け止めるようにすることで、日常的に行動ができるようになります。マスクを着用すること、密を避けること、手洗いをしっかりとすること、給食中は静かに食べること、大人数での会食は避けることなどは、今は「常識」として行動をしています。

「認識」→「知識」→「意識」→「常識」のステップは、なにも新型コロナウイルス感染症対策だけではありません。地震や水害などの大きな災害、今後生活していく中で予想もできない事態や問題に遭遇したときなど様々な場面で大切になってきます。

学校でも様々な課題に直面した時、その解決のために四つの「識」を大切に、判断し行動をしていきます。今年度今井小学校では、不測の事態が起こった時には子供の学びや教育活動を止めないために ICTを活用しリモート学習やオンライン会議を実施することが「常識」となりつつあります。今後も時代や現在の情勢を踏まえた新しい「常識」が必要になった時、対応できるようにしていきます。